

## 06. 県大市大連携公開講座

広島市と広島県の連携強化の一環として、地域に貢献する人材の育成に向けた大学連携を推進するため、本学と県立広島大学で協力し、連携公開講座を開催しています。

今年度で5年目を迎える本講座では、2つのテーマを各4回ずつ、本学と県立広島大学の教員が専門分野を生かし、楽しく、そして役に立つ講義を展開します。7月に行われた県立広島大学主催の「ひろしま学を教える」では、近世から現代までの広島の見方、文化、芸術を対象として、「もる」や「資料」あるいは「作品」を手がかりとして、さまざまな視点で「ひろしま」について講義を行いました。10月に行われた本学主催の「言語を通して世界を知る」では、多言語・多文化についての教育プログラムを持つ2大学の特色を生かし、諸外国の文化や歴史、言語を通してその国の魅力を紹介する講義を行いました。毎年多くの方に受講していただいている人気の公開講座です。



## 05. 広島発のサウンドデザイン

情報科学研究科システム工学専攻 石光徹介 教授

現在、マツダ株式会社とサウンドデザインに関する研究を行っています。テレビCMでマツダデザインのこだわりを自らに目にする方も多く思いますが、デザインの良しあしの感性を定量的に評価することはなかなか難しいものです。同様に、良しあしの感性の評価が難しいものに、サウンドがあります。この難しい感性の定量評価に取り組むだけでなく、「ヒトに何を感ずてほしいのか」からサウンドをデザイン（設計）するとても挑戦的かつ創造的な活動を目指しています。クルマから生まれるさまざまな音の刺激からヒトは何を感じるのかを明らかにして、心理実験とともに生理計測からも評価します。サウンドデザインの評価の一つに「音質」があります。サウンドデザインにおける「音質」とは何だと思いますか？ 澄んだ音？ 重い音？ 高級感のある音？ それともスポーディーな音でしょうか？ 最も的確にその音質を判断するのは「期待」です。期待した音、すなわちデザインに合う音であれば、ヒトは「いい音質」と評価しますが、自分が思い描いたものとは違っていた、すなわち期待以下だと「悪い音質」ということとなります。期待外れだからっかりしますよね。それは心音や皮膚抵抗、脳波などさまざまな生理指標で測ることが出来ます。いい音質の時も同様です。自分の期待に合うとワクワクします。そのような心理状態ではヒトは時の流れを忘れ、とても良いパフォーマンスを発揮します。良いサウンドデザインはドライバーのパフォーマンスを引き出すのです。このようなサウンドデザインをマツダの方々や学生と一丸となって行っています。広島発の新しいサウンドデザイン、さらにはクルマだけでなくあらゆるサウンドを目的に応じてデザインする。これが市大の地域貢献です。



## 04. ひろしまコンピュータサイエンス塾

ひろしまコンピュータサイエンス塾は、2009年度JST未来の科学者養成講座（卓越した意欲・能力を有する児童・生徒の才能をさらに伸ばす試み）に採択され、情報科学を題材としてスタートしました。

情報科学は、数学や理科をはじめとしたさまざまな分野が結びついて構成されており、しかも、非常に速いスピードで変化し続けている情熱的な分野であることから、その修得は容易ではありません。そこで、情報科学部では将来この分野で活躍する人材を育成するには、早い段階から継続して情報科学に触れる機会を提供することが重要と考え、選抜された小学生とその保護者を対象とした定期講座を通年で実施しています。さらに、2017年度からは、中学生を対象とした短期プログラミング講座も新たに開講しています。公立大学であることを生かして、広島市教育委員会が関係機関と連携しながら、今なお高度な進化を遂げている情報科学に親しみ、理解を深めてもらう取り組みを進めています。



時のお話を伺う「基町、歴史トーク」を実施し、参加者32名と一緒に基町の歴史を振り返り、9月には、基町ショッピングセンターの案内サインをリニューアルする取り組み「基町Re:デザイン」で、完成した案内サインについてゲストデザイナーによる講義を行うなど、他のプログラムとのコラボ企画も実施してきました。

10月には、現在ハノーバー専科大学に留学中の学生とテレビ電話をつないで、ハノーバーにある基町アパートに似た建築物「イム・ツェントルム」についての報告会を実施しました。

基町プロジェクト  
http://www.motomachiproject.net/

## 03. 「尾道の歴史や文化を感じる」

尾道のまち並みは、中世・近世に建築された寺社と昭和初期に建築された伝統的な木造家屋等で構成されています。ところが、広島県全体より20年早く始まった人口の減少に伴う空き家の増加や家屋の老朽化などにより、まちの景観が大きく変化しつつあります。こうした変化の中、尾道では、行政による景観の維持や市民団体による空き家への移住者の受け入れ、あるいは空き家を観光の拠点として再生するプロジェクトなどの対策が進められています。

この授業では、人口減少に直面する地方都市において市街地のまち並みを保持・再生しようとする行政や市民の活動を事前に学習します。

そして、現地学習では、専門家による歴史や文化財についての解説を交えながら尾道を探訪します。まち中の散策で新たな発見をしながら尾道の魅力や歴史を知り、刺激を受けながら作品を制作・発表しています。宮島染織アートプロジェクトでは、デザイン工芸科染織造形の学生が宮島の貴重な古民家・因幡部（本学COC+COX教育研究施設）を活用し、世界遺産登録20周年を記念する空間演出として、「宮島に平和の明かりを灯そう」をテーマにビー玉織りにする染織作品展「深海庭園」を開催しました。

また、夜津（いかつ）プロジェクトでは、彫刻専攻と立体造形の学生12名が北広島町の夜津菰村に滞在し、地域の方々と交流を深めながら、現地の材料を使って作品を共同制作し、8月にはその成果を発表する作品展「年輪歳夜津菰茶藨器芸術祭」を開催しました。



## 02. 基町プロジェクト

基町プロジェクトとは、2013年7月に広島市が地域住民と連携しながら実施した「基町住宅地区活性化計画」に掲げている「基町アートロード、アートによる魅力づくり」の実現を目指す取り組みです。若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じて、まちの魅力づくりや基町住宅地区の活性化を目的としています。

4月に開催した第1回では、新拠点として活用を開始した空き店舗の名称を参加者16名と一緒に考え、最終的に「M9&join+」という名称に決まりました。現在は学生によるリリー形式の個展の開催に向け準備を進めています。また、5月には基町プロジェクトの機材を使ったオリジナルシールをくるワークショップ、6月には基町住宅への入居を呼びかけるキャッチコピーを考えるワークショップ、7月には基町をより深く知るためのフィールドワークなど、毎月テーマを変えて実施してきました。

8月には、1日から31日まで開催した写真展の写真提供者から撮影した当

## 事例でみる市大の地域貢献

「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念としている本学は、広島市の公立大学として、「国際平和文化都市の「知」の拠点－地域と共生し、市民の誇りとなる大学－」を目指しています。ここでは、本学の地域貢献活動の事例の一部を紹介します。

## 01. 「広島ニュートラベル」

2017年度のCOC+教育研究事業として取り組むCOC+アートプロジェクト「広島ニュートラベル」では、アートやデザイン表現によって人々をいざなう、交流を深めることをコンセプトに、芸術学部10専攻・分野の学生・教員約140名が、広島市、廿日市市、北広島市、安芸太田町、尾道市の5つのエリアで10のアートプロジェクトを展開しています。学生が地域と向き合う中で地域の魅力や資源を知り、刺激を受けながら作品を制作・発表しています。宮島染織アートプロジェクトでは、デザイン工芸科染織造形の学生が宮



【COC+とは?】  
COCはセンター・オブ・コミュニティの略称。「知」の拠点大学による地域創生推進事業（COC+）は、地域への人の集積を目的に、大学・自治体・企業等が協働して、地域に還元し、貢献していく人材を育成する取り組みへの大学関係者の補助事業です。

### 地(知)の拠点!

広島市立大学COC+染織造形アートプロジェクト「深海庭園」展示作品「深海庭園 The Garden of Deep Sea」(染織) (ナイロン布/ビー玉織り、ほかし染め)

制作者: 片岡美穂(染織)、清水実奈(染織)、吉田真二(染織)、森井紗紗(染織)、三原愛理(染織)、山根奈緒子(以上芸術学部デザイン工芸科染織造形3年)、上期由季(染織)、山手塚一樹(以上長寿学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻1年)

2017年9月、広島市立大学COC+染織造形アートプロジェクトの一環で行われた展示会「深海庭園」で出品された作品「宮島に平和の明かりを灯そう」をテーマに制作された。

3つのひかり 未来をつくる  
広島市立大学  
Hiroshima City University

丁家に  
一人のりを大事に  
社会との関わりの中で  
学生を育てます

〒731-8194 広島市安芸南区大塚第三丁目4番9号  
TEL:082-830-1500(夜) FAX:082-830-1656  
http://www.hiroshima-cu.ac.jp

## west breeze 活躍する市大人 相手と自分を知り、「きっかけ」を育てる

西日本海外業務支援協同組合 堀部 武志(元) (国際学部国際学科2002年度卒業)

国際学部を卒業後、さまざまな仕事を経て、現在は西日本海外業務支援協同組合(株)で働き異文化の架け橋となっている堀部さんにお話を伺いました。

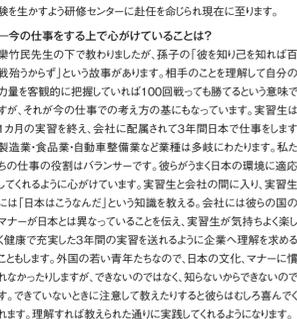
一市大に入学した理由は?  
海外出張の多かった父親が、外国の友人によ連れられて来ていたと、子どもの頃から、将来は外国の人事仕事をしたがっていた!と思っていました。それで、地元で国際学部のある市大に入学しました。

一入学後どのようなことを学びましたか?  
英語を学びたいと思っていましたが、中国語に惹かれてきました。また、中国の文化や歴史を学ぶうちに「実践に基づいた経験をしたが」と思い、実際に北京へ留学して、中国語を学びました。日本に戻って来てからは、身に付けた中国語が就職や仕事に役立りました。あとは、学生に考えさせて発表させる参加型の授業を今でも覚えていて、教育する側になった時は、とても役に立っています。

一今の仕事をするきっかけは何ですか?  
大学卒業後に就職した会社で、留学して身に付けた中国語を生かして、貿易を担当していました。その後経理部門で働いていたのですが、広島に戻ろうと思ったところ、今までの経験を貰って現在の西日本海外業務支援協同組合で働くことになりました。9年間、中国語通訳として中国人技能実習生を指導し、そのノウハウと経験を生かす研修センターに赴任を命じられ現在に至ります。

一今の仕事をする上で大切にしていることは?  
樂竹先生の下で教わりましたが、孫子の「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」という故事があります。相手のことを理解して自分の力量を客観的に把握していれば100回戦っても勝てるという意味ですが、それが今の仕事での考え方の基にもなっています。実習生は、1月の実習を終え、会社に配属されて3年間日本で仕事をします。製造業・食品業・自動車整備業など職種は多岐にわたります。私たちの仕事の役割はバラバラです。彼らから日本の環境に适应してくれるように心がけています。実習生と会社の間に入り、実習生には「日本はこうなんだ」という知識を教える。会社には彼らの国のマナーが日本とは異なることを伝え、実習生が気持ちよく楽しく健康で充実した3年間の実習をされるように企業・理解を求めることもします。外国の若い青年たちへの、日本の文化・マナーを伝えることですが、できないのではなく、知らないからできないのです。できていないときに注意して教えたときに彼らはむしろ喜んでくれます。理解されるときに実践して実践してくれるようになります。

【西日本海外業務支援協同組合】  
名称:海外派遣 外国人技能実習生入事業や海外ビジネスサポート事業を中心とする中小企業家協同組合。



堀部 武志 (ほべたかし)  
国際学部国際学科2002年度卒業  
西日本海外業務支援協同組合 研修センター長  
西日本海外業務支援協同組合ウェブサイト  
http://www.sakaikyogo.com/

## west breeze 留学体験記

本学で海外留学交流協定大学等との活発な交流・学生交換留学を推進しています。

ドイツ・ハノーバー専科大学 (海外留学交流協定大学等への学生派遣)  
国際学部国際学科4年 藤野 航志  
国際学部国際学科3年 繁本 美歩

さまざまな国の留学生とイギリスの授業を受けた。前期はビジネス系、後期は社会福祉系の学部で移民や難民の問題についての授業を受けた。留学生をサポートする体制もかなり整っていたので、非常に過ごしやすかった。学期の終了後、帰国するまでの間、難民支援団体で約1か月インターンシップもしました。これらの生活を通してさまざまな国の人と触れ合い、それぞれの境遇、考えなど日本では学べないことを実感することができました。

留学中、時間があるときはドイツ国内外を一人または友達と旅行したりしました。陸続きなので、他国へも安く、旅行しやすかったです。日本のことが大好きでドイツ人も多く、彼らと遊ぶことも多かったです。その中でドイツ語を学ぶこともでき、実際のドイツ人の生活なども実感します。ドイツで1年生活し、日本として日本を国外から見ることができ、気が付かなかった日本の良さ、もっと改善すべきところ、学ぶべきところがあると思います。日本とドイツの間だけでは触れ合えない人種、異なる規則や習慣、考え方を自分ひとりで実際に体験していくと、自分の視野が広がります。そこが日本のことだけでなく自分自身のことを考えられる機会。自分と実際に交流する人、物、文化、価値観など、当たり前の当たり前の価値観を改めて見つめ直す機会。クラムと(と)顔合わせ(藤野航志)

マレーシア交流プログラム  
初めての海外で学んだこと  
情報科学研究科 松原 肇乃

マレーシア交流プログラムを振り返って、まず、異文化や交通面などで日本の相違点を感じました。テーマパーク(「夜霧」が加わり1日5回あること。交通量が多いのに信号は少なく、横断歩道がない所でも渡るなど。日本人の視点からはとても驚くことばかりでしたが、その国ならではの習慣を体験することができました。マレーシア大学で講義を受けたことは貴重な体験で、国際理解が深まりました。講義は英語でしたが、とても興味深く、歴史が苦手な私も楽しんで学ぶことができました。企業訪問した際には、現地で働く日本人の方からお話を聞くこともでき、なかなかできない体験ができたと思います。訪問した企業TORAY(東レ株式会社)は、製品の製造から販売まですべて行っており、上下関係にこだわらずみんなで協力している間と、理想的な職場だなと思いました。

初めての海外で、最初は自分の英語力に自信がなくて不安で消極的でした。広島で交流したときにできたマレーシア科学大学の友達の家裏と夕食に行ったとき、初めて日本語が通じない環境を体験しました。そのとき、書かれた文章に「でも、簡単な単語を準備して実習する」と書いていたことは伝わる。コミュニケーションが取れるのがとても大変な体験でした。それからは英語を話すことが楽しく、積極的に話せるようになっていきました。

英語に自信がという人でも、事前に講義や交流した経験や、市内滞在が期間中で楽しめるこのプログラムはオススメです。

廣瀬純氏 プロフィール  
2006年出身。法政大学卒業。元プロ野球選手(広島東洋カープ所属)。大分県ラフティングでカヌー入団。2016年10月引退。現在、中興院(RCC)野球解説者(投手)。※2018年シーズンより広島東洋カープ外野守兼・定型コーチに就任

マレーシア大学との交流に答える廣瀬氏  
学生からの質問に答える廣瀬氏

## 学生レポート

この記事は、「学生広報サポーター」に登録している市大生自ら取材をして作成しました。

## 元コイ戦士、プロ野球選手のセカンドキャリアを語る

10月4日(水)、国際学部講義「スポーツ文化経営論」の一環として、広島東洋カープの元選手(現-RCC野球解説者)の廣瀬純氏による講演会が講堂小ホールで行われ、学部など問わず多くの学生・教職員が聴講しました。

講演会では「プロ野球選手のセカンドキャリア」をテーマに、多くのプロ野球選手が現役引退後に直面する厳しい現実についてお話されました。現役時代はスター選手としてカープで活躍された廣瀬氏は、2016年シーズンをもって引退した当時は、その後の人生について不安になったと言います。「野球選手は引退時に高額な契約金を提示されるが、それが退職金の代わりだと言っても過言ではない」と廣瀬氏の発言から、私たちが想像できないような野球選手像と実際のそれとは大きな差があることが伺えました。

現役引退後、球団職員などでプロ野球に携わる職業に就くことができる人はごくわずかです。日本プロ野球選手会は、企業と合同でセカンドキャリア支援サービスを行っているものの、廣瀬氏は現役時代をサポートはまだ十分な状態ではなかった。改善を促していく必要があるとお話されました。そのほかに廣瀬氏は、現役時代や解説者としての仕事について、貴重な写真や交際がユーモアに話し、会場を盛り上げました。



この日は「情報科学研究科」によって、学年・分野を超えた大規模の授業であり、その成果は未知のものでもありました。しかし、サブタイトルにあるように、「本学」に出会うという日々が本学時代よりも少しも少なくなりました。その中で、高橋先生は熱心な指導をしてくださることに感謝しています。この場を借りてお礼申し上げます。

【広島市立大学芸術学部教授 吉田 弘典】

## マツダ・広島市立大学 芸術学部 共創ゼミ

広島発の新たなモノづくりを! ~学生と企業が真闘勝負! 自分を越える「予想外」に出会う~

本学では、芸術学部とマツダが協働して、広島が世界に誇るモノづくりの拠点となることを目指し、今年度からマツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミを開講しました。これは、本学からでの取り組みといえます。今年度のゼミ最終日となった9月8日(金)、本学芸術情報科において、共創ゼミで学んだ学生12名が、その成果である作品についてプレゼンテーションを行い、アドバイザーボードである前田専務教授(マツダ常務執行役員)から評価・講評を受けました。学生たちは、普段の授業に加え、業界の最新情報で活躍するマツダの方々から刺激を受けました。



## プレゼンテーションおよび講評の様子



【概要】  
開催期間: 2017年9月 ~ 2019年度(延長予定)  
対象: 芸術学部2年以上の学部生、芸術学研究所の大学院生等。定員10名~15名。  
内容: マツダからの講演と芸術学部教員の指導のもとで演習を行う。  
代表教員: 広島市立大学芸術学部教授 吉田 弘典  
マツダデザイン本部クリエイティブ・デザイン・パートナー 高橋純介  
担当教員: 広島市立大学芸術学部准教授 大智 智朗  
同准教授 野村 美穂  
同講師 藤田 正典  
アドバイザーボード (株) マツダ常務執行役員 前田 専務  
(株) 作品展示とセミナー運営担当を行う。

## west breeze おめでとうございます

■情報科学研究科の学生が「電子情報通信学会第12回ネットワークソフトウェア研究会」で受賞  
2017年1月、情報科学研究科(博士前期課程)情報工学専攻2年の谷藤龍平が、「ネットワークソフトウェア研究奨励賞」を受賞。

■情報科学研究科の古川准教授が「第22回画像センシングシンポジウム」で受賞  
2017年6月、情報科学研究科の古川准教授が発表した論文が、「優秀研究賞」を受賞。

■芸術学研究所の学生らが金属工芸公募展「いまからまさら2017」で受賞  
2017年7月、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻1年の佃馬敦さんが「山中丞賞」を受賞。

■芸術学部の教員らが「再興102回展」で受賞  
2017年9月、芸術学部の前田准教授が「山崎めぐみ助賞(奨励賞)」を受賞。

■情報科学研究科の古川准教授が「画像認識シンポジウム」で受賞  
2017年9月、情報科学研究科の古川准教授が発表した論文が、「MIRUPレニア賞」を受賞。

■国際学部の手教授が「第3回生涯学習国際大会」で受賞  
2017年10月、国際学部の李在錫教授と獨立広島大学の平野実教授が共同で発表した論文が、「Best Paper」を受賞。

■情報科学研究科の岩城教授が「SICE Annual Conference 2017 in Kanazawa」を受賞  
2017年9月、情報科学研究科の岩城教授が発表した論文が、「2017年度計測自動制御学会技術賞」を受賞。

■芸術学部の倉内教授らが「第72回新匠工業会展」で受賞  
2017年10月、芸術学部の倉内教授が「稲垣賞」を、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻2年の梅田綾香さんが「努力賞」をそれぞれ受賞し、同(博士前期課程)総合造形芸術専攻1年の久保田寛子さんが入選。

## 市大ニュース

■チタン合金の強度を左右する添加金属材料の原子移動モデルを解明  
2017年4月、情報科学研究科の八方直久准教授が、宇都宮大学、名古屋工業大学、熊本大学、公益財団法人高高度材料科学研究センターとの共同研究により、チタン合金を製造する際に添加されたチタン近傍の原子移動モデルを解明した。

■芸術学研究所の学生が「三菱商事アート・ゲートプログラム」奨学生に選抜  
2017年8月、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻2年の梅田綾香さんが「三菱商事アート・ゲートプログラム(MCAGP)」の奨学生に選抜された。

■「光の肖像」展を開催  
2017年8月、平和記念式典に参列する各国大使等来賓への「光の肖像」展を開催した。

■長崎市の平和市長会議に学生がボランティアとして参加  
2017年10月、「平和市長会議」の第9回総会が長崎市で開催された。本学では、総合および平和記念式典の運営にボランティアとして、学生5名を派遣した。

■情報科学研究科の学生が「セキュリティキャンプ全国大会2017」に出場  
2017年8月、情報科学研究科の八方直久准教授が、名古屋工業大学、岡山大学の田邊大生さんが「セキュリティキャンプ2017」の参加者に選ばれた。

■白色中性子線を用いた微量な軽元素を含む物質の超精密原子像取得に成功  
2017年8月、情報科学研究科の八方直久准教授が、名古屋工業大学、茨城大学、高麗科学研究所センター、熊本大学、日本原子力研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構、北大学の研究者とともに、同(白色中性子線ラボラトリー)の実用化に世界で初めて成功した。

## この本 ~教員の著書紹介~

国際学部 奉澤 雅樹  
「アメリカの学校教育-教育思想-制度-教語」  
2017年8月、文芸社

芸術学部 廣訪 敦俊  
「美術」  
2017年10月、青幻舎

## 教員の人事異動

区分	氏名	職名
新任	渡上 貴久	情報科学研究科教授(10月1日付)
	船島 聡志	情報科学研究科特任助教(10月1日付)

## 「WEST BREEZE」の意見・感想を募集します

広島市立大学 企画・広報委員会  
E-mail:kikaku@office.hiroshima-cu.ac.jp  
TEL:082-830-1666 F:082-830-1656  
WEST BREEZEのバックナンバーは、大学ウェブサイト「大学紹介」>「大学広報」>「広報誌」WEST BREEZE」に掲載しています。

広報誌名  
広島市立大学広報誌の愛称タイトル「WB」。「WEST BREEZE」の略称は、「広島市立大学のある風景を眺める人」で命名されました。  
編集・発行: 広島市立大学 企画・広報委員会  
発行日: 2017年12月1日